

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	異文化コミュニケーション(Intercultural Communication)			授業コード	A027451
担当教員名	清水 孝子、山本 義史、近藤 正一				
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	選択科目	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	1回目のオリエンテーション後、1回目～4回目を使って映画を見ていきます。日本の映画とアメリカ版の映画を比較するために、同じストーリーの場面を、両方の映画を使って交互に観ていきます。また、オリエンテーションで3人の担当者が、「ここを注目するように！」との指示を出しますので、映画を観ながら、それぞれの先生の指摘されたことについて、ワークシートを埋めていく作業をしてもらいます。学生の指摘したところを活かしながら、各担当の先生が授業をすすめています。1回目～4回目のワークシート作成の作業も評価の対象とします。もし、何らかの事情で欠席した場合には、レンタルして映画を観ておくこと。				
受講心得	私語・携帯電話の使用などは禁止。遅刻をしないように。3人の担当教員によるオムニバス形式ですので、それぞれの教員の課題にはまじめに取り組むこと。				
教科書	特にありません。				
参考文献及び指定図書	周防正行著『「Shall we ダンス？」アメリカを行く』(太田出版、1998年) 周防正行著『アメリカ人が作った「Shall we ダンス？」』(太田出版、2005年) http://www.juce.jp/LINK/journal/1102/03_02.html 他の参考文献は、それぞれの担当者が授業の中で紹介していきます。				
関連科目	アイデンティティの社会学				

授業の目的	「文化」とは、客観的にその性質を確定できるものではありません。いろいろな異なった状況の中で、いろいろな形で「文化なるもの」があらわれるのだと考えられます。つまり、見る人の位置や立場の違いによって、1つ1つの文化なる特性も、複数の文化間の相違も、いろいろと違って見えてくるということです。文化の違いのおもしろさというのは、実は、文化の違いを見る目がさまざまに違うということにあるということに気づいてもらいたいと思います。
授業の概要	「異文化コミュニケーション」の講座では、周防正行脚本・監督の日本映画『Shall we ダンス？』(1996年)と米国でリメイクされた映画『Shall we dance?』(2004年)の2本を使って、文化間の相違点をさまざまな立場・観点から見るとどのようにみえるのかを5人の講師が紹介していきます。その中で、受講生1人ひとりに、様々な視点から「文化」を読み解く可能性、「文化」の交流の可能性を考えてももらいたいと思います。

○授業計画	学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：授業説明・事前アンケート・映画視聴(山本義史・清水孝子担当)		配付資料 演習課題 課題の時間 60分
第2週：映画視聴(清水孝子担当)		配付資料 演習課題 課題の時間 60分
第3週：映画視聴(清水孝子担当)		配付資料 演習課題 課題の時間 60分
第4週：映画視聴(清水孝子担当)		配付資料 演習課題 課題の時間 60分
第5週：「映画から読み解く異文化受容(1)(清水孝子担当)		配付資料 演習課題 課題の時間 60分

日本興行版(1996年日本公開、監督・周防正行、136分)と全米興行版(1997年米国公開、監督・周防正行、118分34秒、英語字幕)を比較します。特に編集の最初の段階で、米国側が原作を20分以上カットすることを提案しました。そのカット部分を紹介しながら、米国側が何を取捨選択して、原作を「変容」させたかに注目します。カットされた部分についての両者の「理由・反論」を紹介しながら、そこに見える両者の「まなざし」について考えたいと思います。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第6週：「映画から読み解く異文化受容(2)」(清水孝子担当)

日本オリジナル版(日本興行版と全米興行版)とハリウッド・リメイク版(2004年全米・2005年日本公開、監督Peter Chelsom、106分、日本語字幕)を比較しながら、日本オリジナル版がどのようにハリウッド・リメイク版に「変容」したかを検証します。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第7週：「映画から読み解く異文化受容(3)」(清水孝子担当)

日本版とアメリカ版の映画から、「コンテキスト」を切り口に、文脈に依存するコミュニケーションのスタイルと文脈にあまり依存しないコミュニケーションのスタイルを考察します。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第8週：「映画の中の建築空間」(近藤正一担当)

空間体験によって認知される空間を図式化する手法の一つであるイメージマップ法を用いて、映画の中の仮想空間を可視化する演習を体験してもらいます。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第9週：「印象に残る空間の比較論」(近藤正一担当)

広く空間認知の観点からどのような空間が印象に残るのかについて、おもに比較論の手法を用いて解説します。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第10週：「空間認知の相克と相性(近藤正一担当)

異文化において同様のテーマで制作された二つの映画作品における建築空間が、どのように認知されているのかを解説します。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第11週：「『Shall weダンス？』における人生の課題とアイデンティティの確立(山本義史担当)

『Shall weダンス？』と『Shall we dance?』における人生の課題とアイデンティティの確立および受講生のアイデンティティについて考えます。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第12週：「異文化にもあるアイデンティティを支える相互性」(山本義史担当)

アイデンティティは、相互性によっても確立・再確立されます。二つの映画に表現された相互性について考えます。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第13週：「異文化における共通性」(山本義史担当)

文化といえども人間が考えたものであり、その前に生物であるのが人間です。異文化における共通性について考えてみます。

配付資料
演習課題 なし
課題の時間 60分

第14週：「よりよい理解をめざして」(山本義史 & 清水孝子担当)

コミュニケーションの事例を、「DIE法」(「事実の描写」「解釈」「評価」)の手順を用いて、考えていきます。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

第15週：まとめ(山本義史 & 清水孝子担当)

講義のまとめと、授業の事後アンケートを実施します。

配付資料
演習課題
課題の時間 60分

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブラーニング	「アクティブラーニング科目」

備考	
○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	異文化コミュニケーションについて関心をもつ。
【知識・理解】	異文化コミュニケーションの問題を、さまざまな角度から理解するための知識を獲得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	異文化コミュニケーションで学んだ知識を、リアルなコミュニケーションの理解に役立てる。
【思考・判断・創造】	文化の違いや共通点に対して客観的に判断できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		25点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		25点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え方」を含む。		25点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各担当者が、レポート課題の作成方法・評価について説明します。
発表・その他 (無形成果)	